

フラット35住宅仕様実態調査、「省令準耐火」「片流れ」など増加

住宅金融支援機構は2017年度の「フラット35住宅仕様実態調査」の結果を発表した。5年ごとに実施しているもので、対象は全国の木造軸組工法による新築一戸建。

1.構造では、「木造(耐久性あり)」が70.0%と最も多かったが、前回調査(77.3%)に比べると減少した。一方、「準耐火(省令準耐火)」の割合は増加傾向が続いた。「準耐火(省令準耐火)」増加については、火災保険・地震保険料が軽減されることが一定に認知されてきたことを指摘した。

2.通し柱の寸法は、「12cm角」の利用割合が前回調査の71.5%から49.7%に減少。一方、「通し柱はない」が9.4%から21.3%、「10.5cm角」が18.1%から28.4%にそれぞれ増加した。「通し柱はない」増加の背景には接合部金物の性能向上、「10.5cm角」増加の背景には、プレカットの普及による柱の寸法の画一化をあげた

3.窓サッシ枠については、「アルミ製」が前回の73.0%から38.3%と大きく減少。一方、断熱性に優れた「プラスチック製」が9.2%から23.1%、「木又はプラスチックと金属の複合材料製」が1%未満から32.8%に大きく増加した。これらの要因には、省エネ基準の改正などの影響を指摘した。

4.屋根形状では、「切妻」が40.7%で最多ながら前回(48.0%)から減少。「寄棟」も17.7%から13.2%に減少した。一方、「片流れ」は19.2%から30.5%に増加。増加の要因については、太陽光発電の普及に合わせて設置しやすい屋根形状であることや、外装材・外壁材の耐久性が高まったことをあげた。



情報提供： 新建ハウジング

5月の住宅展示場来場者数、前年割れ 若年層の来場振るわず



住宅展示場協議会および一般財団法人住宅生産振興財団が6月13日発表した5月の住宅展示場の来場者組数は、45万2329組となり対前年同月比7.37%の来場減となった。

エリア別では北海道の1エリアが来場増となった以外、他7エリアは全てマイナスで、特に東北、近畿、中国・四国、九州・沖縄の4エリアは二ケタの大幅減となった。同協議会では、ゴールデンウィーク後半の天候不良といった外的要因だけでなく、30代前半の来場者が減少傾向にあることも要因に挙げている。

近畿:7万6901組(前年同期比18.04%減)、中国・四国:2650組(同20.68%減)

情報提供： 新建ハウジング

省施工窓リフォーム「リプラス」の対応範囲を拡大

LIXILは、壁を壊さずに窓を取り替えられるリフォーム商品「リプラス」のラインアップを拡充。新たに、多様な装飾窓に対応する縦すべり出し窓・横すべり出し窓、ランマ付き・外付きサッシに対応するタイプを追加して6月18日に発売した。

「リプラス」は、壁をこわすことなく、また足場も組まずに、室内作業のみ・約半日で施工が完了するアルミ樹脂複合のリフォーム窓。

今回は、ガラスルーバー、FIX、縦すべり出し、横すべり出し、上げ下げ、外倒し、内倒しといったさまざまな既設窓に対応する縦すべり出し窓と横すべり出し窓をラインアップ。

さらに、古い住宅で多いランマ付きサッシや外付けサッシに対応する引き違い窓を用意した。



情報提供： LIXIL